

信州大学医学部付属病院 呼吸器・感染症・アレルギー内科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力を願いいたします。

平成 28 年 4 月 5 日

「TAFRO 症候群」に関する臨床研究(後ろ向き観察研究)を実施しております。

信州大学医学部医の倫理審査委員会の審査による医学部長の承認を得て、調査を行っています。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

倫理審査承認番号	3386
課題名	新規疾患 ; TAFRO 症候群の疾患概念確立のための多施設共同 後方視的研究
研究機関	信州大学医学部附属病院(金沢医科大学等)
研究責任者	信州大学医学部附属病院 (呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋)
研究実施期間	平成 28 年 4 月 5 日～平成 30 年 12 月 31 日
研究の意義、目的	<p>多中心性 Castleman 病(MCD)は高γグロブリン血症、強い炎症反応、貧血および血小板增多などを特徴とする多クローン性のリンパ増殖性疾患(LPD)です。</p> <p>2010 年に高井らは、TAFRO 症候群(thrombocytopenia, anasarca, fever, reticulin fibrosis, organomegaly)という概念を報告した。また、2011 年に Kojima らは、胸腹水と血小板減少を併発した本邦の MCD 患者を報告しました(Castleman-Kojima disease)。これらの症例は典型的な MCD とは異なり、リンパ腫および SLE などの自己免疫性疾患との鑑別が重要です。</p> <p>TAFRO 症候群に関しては、まだ新しい概念であるため、その発生率、症候、臨床経過(治療反応も含む)などまだ不明な点も多い。そこで、TAFRO 症候群の疾患概念の確立のために、まず本邦における TAFRO 症候群の発症につき全国的に一次アンケート調査を行い、その後に協力の得られる施設から後方視的にデータを収集する。それによって、TAFRO 症候群の臨床的特徴や適切な治療法、予後を明らかにすることを目指します。</p>
対象患者様	平成 22 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日の期間に当院を受診された TAFRO 症候群、あるいはそれに類似した疾患の方。
利用カルテ情報	診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果、画像データなど
その他	この研究は、金沢医科大学 血液免疫内科学に事務局をおく、多施設共同研究です。

既存の検体と診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へお名前や個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌で発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究に検体を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、下記のお問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

この研究でご自分の検体、診療記録の利用をお断りになっても、通常の診療などで不利益を受けることはありません。上記の研究期間中であれば、いつでもお断りいただけます。

お問い合わせ先：信州大学医学部附属病院

担当者 呼吸器・感染症・アレルギー内科 山本 洋（電話：37-2631）